

■社会貢献・連携事業

◎関西大学なにわ大阪研究センター主催

「『ガラス乾板』に記録された住吉大社の風景」



6月3日から8月下旬まで、なにわ大阪研究センター主催の写真展「『ガラス乾板』に記録された住吉大社の風景」が、住吉大社本宮回廊で開催された。

ガラス乾板とは、明治後半から昭和初期にかけて盛んに使われていた記録媒体で、ガラス板の表面に臭化銀乳剤を塗り、感光させて撮影するもの。

住吉大社には600枚以上のガラス乾板がほぼ未整理のまま残っており、現在、デジタル化作業と分析が進められている。その作業の過程で、1932(昭和7)年に発行の『住吉大社写真帖』に掲載された写真の原板が発見されたことから、住吉大社所蔵のガラス乾板は、昭和初期に撮影されたものが多く含まれることが判明した。

写真展では、整理が終わったものの中から、当時の神事や祭りの様子が分かる作品を紹介。現在は失われてしまった貴重な風景も記録されており、訪れた人は熱心に見入っていた。

期間中の6月24日には、文学部の黒田一充教授と同研究室の学生らによる「住吉大社石燈籠ガイドツアー」も実施。60人の参加者は、総合調査を基に作成されたイラストマップを手に、境内の石燈籠を見て歩いた。



キッズミュージアム2017 子ども向けの 夏休みセミナーを開催

英語絵本を楽しもう!

ひらめき☆ときめきサイエンス・四神と記念写真

水時計作り体験

関西大学では8月2日と3日、夏休みの子供向けに「キッズミュージアム」を千里山キャンパスにて開催した。集まった子供達は、自然豊かなキャンパス内で虫取り網片手に昆虫探しをしたり、博物館内で木工アニマルや本のポップなどの創作体験をしたり、土器・銅鐸パズルや「飛鳥考古楽かるた」などの文化学習に取り組んだ。その他、3Dイリュージョンを折り紙で体験するコーナーや、歌って踊って英語絵本を楽しむ会なども開催され、子供達はそれぞれ興味のある催しに参加し、全力で楽しんでいった。

また、2日には、小学5・6年生を対象に「ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～」も開催。文学部の米田文孝教授が「漏刻が計る古代の時間～水落遺跡の古代水時計を知ろう～」をテーマに、最新のCG画像や紙芝居を用いて飛鳥時代について解説。水時計作り体験や飛鳥時代の文物を主題にしたカルタ取りもあり、参加した31人の子供達は、最先端の研究に触れる貴重な体験に瞳を輝かせていた。

今年も
3キャンパスで
開催

市民参加型の キャンパス祭で 大盛り上がり!

◎高槻キャンパス



5月28日、総合情報学部祭典実行委員会の企画・運営のもと、高槻キャンパス祭2017が開催された。23回目を迎えた今年のテーマは「楽しすぎるのでご注意ください」。イベントに参加する方に、たくさんの楽しさを伝えたいという思いが込められており、学生によるステージ企画や応援団による演舞、高校生による野球の親善試合、スケート教室など、さまざまな催しが行われた。

また、古賀広志教授による講演「情報を活かす経営」や、研究発表なども行われ、キャンパス一帯は終日大盛況。来場者は約2,600人で、楽しさいっぱいの一日となった。

6月4日、人間健康学部祭典実行委員会を中心に、第7回となる堺キャンパス祭が開催された。今年のテーマは「来たらわかる楽しいやつやん!! in 堺キャンパス」。地域の方々にも世代を越えて楽しんでもらいたいという思いが込められた。模擬店をはじめ、ダンスパフォーマンスや親子で参加できるワークショップ、お化け屋敷など、子供から大人まで楽しめる催しが数多く行われたほか、体力測定や子供達とのスポーツ交流なども開催され、地域社会との連携を推進する人間健康学部らしい内容となった。当日は1,675人の来場があり、笑顔と笑い声の絶えない一日となった。

◎堺キャンパス



◎高槻ミューズキャンパス



6月18日、社会安全学部の学生を主体に、高槻市の協力のもと、「学ぼうさい、遊ぼうさい みんなで防災の意識を高めよう!」をテーマに、高槻ミューズキャンパス祭が開催された。

当日は、吹奏楽部によるコンサートで開幕。「机の上の避難訓練・紙ルービック×ワード」や「作って遊ぼう! 防災グッズ」など、防災を学びや遊びの観点から知るイベントが開催されたほか、模擬店や、高槻市で人気のご当地グルメ・物産展、起震車による地震体験、防犯グッズ作製体験、防災学習ゲーム、地域自治会による炊き出しランチなども行われた。約3,000人ももの来場者があり、会場は大いに賑わった。